

はじめに

豊かな自然環境や歴史的資源に恵まれ、首都圏へのアクセスにも優れた立地条件を有する小田原は、神奈川県西部地域における中核都市として発展してまいりました。

しかし、近年の人口減少・少子高齢化の進展、環境問題の深刻化、また、長引く景気の低迷と産業の空洞化など、私たちを取り巻く社会構造や経済情勢は大きく移り変わり、従来の考え方や整備手法では、まちの将来の姿を描くことが難しくなってきました。

こうした情勢の変化を受け、国においては、これまでの拡大成長による量的充足から、次世代に、より良いものを引き継ぐ価値観に重点を置き、コンパクトで効率的な集約型都市構造（エコ・コンパクトシティ）を目指すことが、今後の都市政策の基本的な方向として示されました。

このような動向を踏まえて、本市の魅力の再構築を目指す第5次小田原市総合計画の策定にあわせ、「小田原市都市計画マスタープラン」の改定を行いました。

この都市計画マスタープランは、概ね20年先を見据えつつ平成34年までの12年計画として、小田原の特性を活かした集約型都市構造の考え方や、人口減少地域を都市計画の視点から支える方策など、持続可能な都市づくりの方向をお示ししたものです。

計画の推進に当たりましては、市民の力・地域の力を結集した新しい公共によって、本市の個性と魅力溢れる都市づくりを進め、次世代に受け継ぐ小田原を築き上げてまいりたいと考えております。

最後になりますが、都市計画マスタープランの改定に当たりまして、力強いご意見、ご提言をいただきました市民の皆様、関係各位の方々に、心からお礼を申し上げます。



平成23年3月

小田原市長

加藤 憲一